

日が暮れるのが早くなり、涼気の中に金木犀の香りが漂う中庭では虫たちが美しい響きを競う、よい季節になりました。刈り取りをすませた田と黄金色に輝く田とが混在し、特産のピオーネや栗が店頭を賑わせ、山里は豊かな収穫の時季を迎えようとしています。

9月6日(土)に行った「第2回新高祭体育の部」は、例年を上回る多くの保護者、地域の方が来校され、高校生らしい力のこもった迫力ある競技、趣向と演出を凝らした応援パフォーマンス、生徒役員によるスムーズな進行などを堪能していただきました。生徒たちも、仲間との協働で自らがつくり上げたという確かな手ごたえと満足を感じたに違いありません。

部活動では岡山県高校新人大会が9月下旬から今月にかけて行われます。既に陸上競技男子400m競走で3位に、弓道競技でも男子団体、男女個人で上位入賞して中国新人大会への進出を決めています。さらに続く活躍に期待が高まります。

ところで、少し前のことになりますが、旧盆の期間、私は立て続けに3つの新見高校同窓会に出席しました。1つは私の学年同期会、もうひとつは教員として担当した学年のそれ、そして統合10年目を期して「新見北高校校友会」、「旧新見高校同窓会」、「新・新見高校同窓会」を糾合して発足した「新見高等学校同窓会総会」の3つです。

同期会では、恩師のお話を伺ったり、高校生当時の思い出や卒業後の来し方など話題は尽きることがありません。残念ながら出席できなかった人にはその場から電話をして交代で話したりなどということもありました。高校生のころには科やクラスが違ったりしてさほど交流がなかった人とでも「新見高校の同級生」という基礎は結びつきをたやすくしてくれます。

担当学年の「生徒たち」も今や社会の中堅。会社員、福祉士、教職員、公務員などさまざまな分野でしっかり働いている自負、次の世代を育てている母や父としての自信が伺え、とても頼もしく感じました。笑いあって過ごしたときはもちろん、涙を流すほど厳しく叱ったりしたことも今では懐かしい思い出として昇華されているようです。「後輩を頼みます。」ありがたい激励の言葉と受け止めました。

新見高校同窓会総会。旧農林学校時代の大先輩から、今春本校を巣立った未成年の若者までが集い、「新見高等学校」の歴史をずっしりと感じました。同窓会からは、現役高校生の活動を支援することが本意だとして毎年多額の支援をいただいています。大正7年(1918年)創立の本校は、4年後には100周年を迎えます。新見高校第2世紀へ、卒業生から在校生へと脈々と受け継がれている母校への誇りと愛着を、さらに確かに育むことができる学校になるよう努めたいと思います。

さて10月。勉学に、スポーツに、文化・芸術活動に学校が最も活性化する季節です。今月も多くの話題をお届けできると思いますので、たびたびホームページにお越しください。

平成甲午歳神無月朔日

岡山県立新見高等学校長 松井 健一